

希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト

公募結果

■ 概要

選考結果	不採択
団体名	一般社団法人 笑顔の花
所在地	長野県安曇野市
代表者名	茅房 栄美
申請事業名 主題	信州こどもホスピス・プロジェクト
申請事業名 副題	終末期・闘病中の子と家族が安心・笑顔になれる滞在ハウスを実現
解決すべき社会課題	<p>【領域と分野】</p> <p>1) 子ども及び若者の支援に係わる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> - 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援(①) - 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援(②) <p>2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> - 社会的孤立や差別の解消に向けた支援(⑤) <p>3) 地域社会における活力の低下その他の困難な状況に直面している地域の支援に係る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地域の働く場づくりの支援(⑥) - 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援(⑦)
申請事業の概要	<p>終末期を迎えた闘病中のこども達とその家族と一緒に過ごすことが出来る滞在施設を目指して、小児医療の支援活動を行います。ここ長野県には、難病や治療困難な重い病気を抱えているこども達とご家族にとって最後の砦としての役割を担う、長野県立こども病院、松本には信州大学附属病院、相澤病院があります。県内外から重い病気のこどもの治療の為に来院し、病態によっては長期入院されるこども達とご家族が通院します。入院中は付きっきりで看病をする為、看護する親たちは日に日に精神的・肉体的に疲弊してきます。我が子に残された時間に限りがあると分かった後の看病は、家族にとって精神的・肉体的に追い込まれていき、不安や悲しみ・孤独感が加速していきます。こども達は残された時間に限りがあっても、最期まで生きる事をあきらめることなく、好きなこと・今やりたいことをしよう命は輝き続けます。家族一緒に穏やかな時間を過ごすことで、両親は日頃の看護から少し離れてホッとする、闘病中こども達のきょうだいは普段感じている寂しさを忘れることが出来る、そして闘病中のこども達は好きなことをして輝き続ける場所が必要です。終末期を迎えると、病院から出て自宅で看病し最期の時を迎えさせてあげたいと、思うこともあるでしょう、しかし、家庭の事情や住宅事情などによって自宅で子どもの終末期を、家族皆で過ごすことを出来ないこともあります。近年の新生児医療の高度化により医療的ケア児が増加する中、24時間看護の必要な家族の休息(=レスパイト)となる「お家」としても活かして行きます。闘病中または治療困難になり、終末期を迎えた子とその家族が、例え短期間でも病院の外に出て家族一緒に日常に近い感覚で穏やか時間を過ごすことが出来る手助けをさせていただきます。</p>
事業実施地域	長野県
申請事業期間	2021年4月～2024年3月
申請助成額	20,000,000円 【内訳】直接事業費 17,000,000円、管理的経費 3,000,000円

■ 審査コメント

- ✓ 中長期アウトカムに描く「信州子どもホスピス」の構想および当団体の様々な活動についても評価できる、一方、
- ✓ 家族滞在施設の開設後間もなく、十分な実績の積み上げがない
- ✓ 県立子ども病院との連携も図りつつ家族滞在施設で事業を拡充し、地道にホスピス事業につなげて欲しい
- ✓ 「お家」は小規模施設のため病児や家族のニーズに応えるには不十分であり、次につなげるには相当な推進力・組織力が必要だが体制があるか
- ✓ 資金計画は施設運営費が中心となっており、活動については全てボランティアを前提としているが事業を進めるには十分な体制なのか疑問がある

希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト

公募結果

■ 概要

選考結果	不採択
団体名	公益社団法人こどものホスピスプロジェクト
所在地	大阪府大阪市
代表者名	高場 秀樹
申請事業名 主題	こどもホスピス・オンラインスタジオ事業
申請事業名 副題	
解決すべき社会課題	【領域と分野】 1)子ども及び若者の支援に係わる活動 ー日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援(②)
申請事業の概要	<p>生命を脅かす病気(LTC)を伴う子どもたちに、オンラインスタジオを活用し、遊び、憩い、子どもらしい体験の提供や交流の機会づくりを行う事業です。特に、コロナ禍において対象となるLTCの子どもたちの生育環境は悪化しており、病室や自宅から出られない子どもたちの成育環境の改善は開発が急務な領域の一つになっています。</p> <p>本事業は、対象児の興味関心に合わせ、様々なゲストを施設内の配信スタジオにお招きし、様々なプログラムを配信することで、例えば入院中や自宅療養中の子どもであってもオンラインでコミュニケーションが可能となります。また、配信スタジオに観覧に来るなど同じ病気の体験を持つ子どもたちが「楽しみで繋がる機会」を提供し、そこから知り合った子ども同士が当施設でお泊り会やお誕生日会を企画するなど、ピア的な取り組みへの発展を可能としてくれるでしょう。このように、こういった環境整備とソフト開発によって、LTCの子どもたちが病院や自宅以外で安心して楽しく過ごせる時間や場所を作り出すことができます。</p>
事業実施地域	主に大阪(京阪神まで含む)
申請事業期間	2021年4月～2023年3月
申請助成額	18,788,000円 【内訳】直接事業費 18,788,000円、管理的経費 0円

■ 審査コメント

- ✓ オンライン配信はコロナ禍の現状のみならず病児・家族の特性を捉えた事業と評価できる、一方、
- ✓ 企業寄附やクラウドファンディングとしてアピールできる内容であり、休眠預金事業としての優先度に疑問がある
- ✓ 既往のこどもホスピスの基盤強化も本休眠預金事業の目的であるものの、コロナ対応としての事業は本来の目的から外れている(休眠預金に別途のコロナ対応緊急支援制度あり)
- ✓ ハードとしてのスタジオを自前で持つのではなく、借りる方法もあるのではないかと
- ✓ アウトカムの設定が不十分であり、病児および家族のQOL向上にどのように繋がるのか指標化されていない

希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト

公募結果

■ 概要

選考結果	不採択
団体名	よどきり医療と介護のまちづくり株式会社
所在地	大阪府大阪市
代表者名	山根 匡博
申請事業名 主題	小児特化型訪問看護の定着と拡大
申請事業名 副題	淀川キリスト教病院こどもホスピスと目指す一体型サービス
解決すべき社会課題	【領域と分野】 1)子ども及び若者の支援に係わる活動 ー日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援(②)
申請事業の概要	淀川キリスト教病院の運営するこどもホスピスと同様の「空間」や「居場所」を、地域や在宅で実現することを目指し、在宅療養インフラの構築に取り組んでいる。まずは、その中心となる小児特化型訪問看護ステーションを開設完了した。主に淀川キリスト教病院こどもホスピスを利用するこども達が在宅に戻った際に、訪問看護が継続的・支援的にかかわることで、孤独や生きづらさを感じない暮らしや地域づくりを実現できるよう取り組んでいる。2019年10月に事業所を開設し、現在、管理者1名（小児看護専門看護師）、看護師4名の体制で、25～30名の利用者に対応しているが、まだ安定的な運営には至っていない。淀川キリスト教病院こどもホスピスでは、小児難病児や小児がん患児へ症状コントロール、意志決定支援、感覚統合運動、グループ活動、リハビリ、家族への心理支援、又グリーフケア・ビリーブメントケアを行っている。こうしたケアを病院だけでなく地域の中においても継続的に提供することを目標として取り組みを進めている。
事業実施地域	大阪市東淀川区・淀川区・隣接市区
申請事業期間	2021年4月～2023年3月
申請助成額	19,550,531円 【内訳】直接事業費 19,550,531円、管理的経費 0円

■ 審査コメント

- ✓ 淀川キリスト教病院と医療連携した小児特化型看護ステーションは病児・家族のQOL向上に有効な事業と評価できる、一方、
- ✓ 訪問看護は小児ケアの一つの方法ではあるが、病児と家族のための第二のお家としてのこどもホスピスを展開するという本事業の直接的な目的から外れている
- ✓ 診療報酬制度の直接の対象である訪問看護事業の拡充は公的扶助のさらなる充実により解決されるべきで、休眠預金事業の目的にそぐわない
- ✓ アウトカムの設定が不十分であり、病児および家族のQOL向上にどのように繋がるのか指標化されていない